

## 第3部

# 図書館の文庫・コレクション



# 文庫・コレクションの紹介

## 鷓飼香織

※本文では敬称を略しています。

※口絵「文庫・コレクション」を参照ください。

当館では、数多くの個人文庫・特別コレクションを有しており、旧館報にあたる『籓苑』第20号—総合図書館開館記念特集—（昭和60(1985)年4月28日発行）に紹介しております。この第3部では、それ以降に設けられた新たな個人文庫及び特別コレクションを紹介いたします。

## 大阪文芸資料

関西大学は大阪に位置する大学であることから、古くから大阪郷土資料の蒐集に力を注いできた。昭和35（1960）年には『大阪関係資料目録』を刊行し、昭和58（1983）年からはその対象を、明治・大正・昭和の三代にわたる大阪の作家、画家、芸能人等の作品と、大阪を題材とした作品と定め、積極的に蒐集してきた。その成果は、平成2（1990）年刊行の『大阪文芸資料目録』として結実している。その後も蒐集は続いており、現在所蔵冊数は、12,200冊である。

### 1 大阪文芸資料の内容

コレクションの内容は、蒐集対象作家の初版本や大阪を題材とした作品、大阪の芸能人の自伝及び芸能関係資料など約10,700冊、自筆原稿約100種、短冊約80種、色紙約90種、書簡約210種、一枚物約400枚、また大阪発行の文芸雑誌、芸術関係雑誌約620種からなる。

帯やカバー等を残す原装保存を採用しており、出版当時の趣向をこらしたキャッチコピーや装丁を味わうことができる。

### 2 蔵書紹介

大阪文芸資料は多岐にわたるため、その一部のみ紹介する。

- (1)渦巻：小説 上、中、下、續編 渡辺霞亭著 錦木清方口繪 隆文館  
大正 2-3 年（1913-1914） 4 冊 [LO2\*W\*2\*36-1/4]

大阪文壇は、明治 14（1881）年から 31（1898）年頃の新聞小説から始まるとされるが、渡辺霞亭はその中心的人物である。

- (2)川端康成自筆原稿 昭和 31 年（1956） 2 枚 ペン書 日活映画「東京の人」についての原稿 [LO2\*K\*42\*163]

日本人初のノーベル文学賞受賞者である川端康成の作品は、大阪文芸資料には、原稿のほか書簡、葉書等 255 点が収蔵されている。

- (3) [浪花美人と戎大黒図]：背景に淀川の鉄橋 長谷川貞信画 1 枚  
14.3 × 26.6cm 色刷 [LO2\*733\*\*5]

長谷川貞信は江戸後期から活躍する大坂の浮世絵師。図書館では大阪文芸資料のほかにも初代から三代までのコレクションを有している。

## 長澤文庫

長澤文庫は、中国文学研究者であり、また和漢古書の書誌研究者である長澤規矩也（明治 35 年 5 月 14 日～昭和 55 年 11 月 21 日）[1902-1980] の旧蔵書である。

昭和 48（1973）年 8 月から始まった大阪天満宮の御文庫の整理は、漢籍は長澤規矩也が、国書は中村幸彦が中心となって進められた。長澤規矩也の下では、森上修（当時大阪府立図書館員）、長澤孝三（当時瀧井姓）が作業した。なお、当初この班には大庭脩（当時関西大学教授）が参加する予定であったが、校務多忙のために、長澤孝三と森上修が参加したとのことである<sup>1)</sup>。

長澤規矩也逝去後、森上から大庭に旧蔵書寄贈の相談があり、大庭が文学部、さらには大学を動かして、関西大学に入ることになった。

図書館には平成 2（1990）年 10 月末に当時の浦西和彦図書館長に伝えられ、その後受入の準備を整えて、平成 5（1993）年に「長澤文庫」が創設された。

平成 5（1993）年から平成 14（2002）年の 10 年間をかけて約 31,000 冊が蔵書となる。

## 1 長澤文庫の内容

蔵書の内容は、主として明治、民国以前の刊本や写本が約28,000冊（漢籍約18,000冊、和書約10,000冊）、地図や役者絵など一枚物が約2,000枚、各機関の目録類などを含む洋装本が約1,000冊である。

## 2 蔵書紹介

春秋經左氏傳句解 70巻（存20巻） 宣徳6（1431）年11月 2冊  
25.0 × 15.9cm [CL23\*\*A\*415/416]

朝鮮刊本。存巻第51至70。巻之61-70の裏表紙裏に「昭和十六年十二月十九日北京ヨリの帰途 京城二下車 群書堂ニ之ヲ得タリ 戸川濱男」と朱筆があり、「殘花書屋」「戸川氏蔵書記」の印あり。「殘花書屋」は戸川残花の、「戸川氏蔵書記」は戸川浜雄<sup>2)</sup>の蔵書印。戸川浜雄は残花の長男。浜雄は父残花の印を譲り受け、使用していたようである。

## 中村幸彦文庫

中村幸彦文庫は、日本近世文学の研究者である中村幸彦（明治44年7月15日～平成10年5月7日）[1911-1998]の旧蔵書である。

中村幸彦は、昭和46（1971）年から54（1979）年まで本学文学部教授を務め、昭和48（1973）年10月から51（1976）年9月までは第10代図書館長として、現在の総合図書館建設計画を進めるなどの功績を残した。

その蔵書については、谷沢永一（当時関西大学教授）を通じて生前の平成3（1991）年3月に譲渡の約束を交わした。平成10（1998）年5月7日中村幸彦逝去後、譲渡契約までの間は「故中村幸彦氏蔵書の寄託に関する覚書」を締結、蔵書は7月末に関西大学図書館に移送された。そして平成13（2001）年3月、譲渡契約を交わし「中村幸彦文庫」が創設された。翌平成14（2002）年から18（2006）年まで5年をかけて約33,000冊が蔵書となった。

## 1 中村幸彦文庫の内容

蔵書の内容は、主に清・江戸時代までの刊本および写本である和漢古書

(漢籍・漢詩文、仮名草子・浮世草子、談義本、隨筆、読本、黄表紙、滑稽本、人情本、実録、歌書、俳諧、丸本、雜書、淡路島関係書など)が約15,500冊、現代の和書(洋装本、和装の現代和書、手澤本・秋成・広瀬家関係書など)が約17,000冊、現代の中国書が約420冊、その他に資料(原稿、自筆ノート、語彙カードなど)が55箱、雑誌が41タイトル含まれる。

## 2 蔵書紹介

尚書註疏 20 卷 旧題 (漢) 孔安国伝 (唐) 孔穎達等奉勅疏 (唐) 陸德明釈文 南宋中期刊 20 冊 13.2 × 11.1cm [CL24\*\*1\*1/20]

中村幸彦文庫唯一の貴重書。中国最古の歴史書で、堯、舜から周までの政治に関する意見を集めたもの。

本書は経の本文に続き、注、疏、釈文、重言、重意、互註を合刻。帙に貼付された昭和39(1964)年5月29日付長澤規矩也筆のメモには、書誌事項のあと「南宋中葉刊本。コノ本ノコトハ諸目録ニ未載。疏ト別ニ釈文を加へたるを注意すべし。十行本の祖本と何れが先なるか、再考すべし。」とあり、旧蔵者が福岡市内の古書店から購入するにあたり、長澤規矩也に資料について尋ねたことが知られる。

## 廣瀬文庫

廣瀬文庫は、チョーサー等の英文学研究者である廣瀬捨三(明治44年9月29日～平成14年2月2日)[1911-2002]の旧蔵書である。

廣瀬捨三は関西大学法文学部文学科を卒業し、大学院を経て、昭和15(1940)年同大学予科の助教授となり、昭和17(1942)年教授に就任した。その後一旦退職ののち昭和19(1944)年予科に復職、昭和23(1948)年文学部教授となり、昭和42(1967)年11月から44(1969)年9月までは第5代図書館長を、昭和45(1970)年10月から48(1973)年9月までは第27代関西大学学長を務めた。

専攻は中世英文学であったが、萬葉集をはじめ古典籍の熱心な蒐集家であった廣瀬捨三の蔵書が本学図書館に入ったのは、逝去後の平成14(2002)

年の3月末、ご遺族から蔵書を関西大学に預けたいとの申し出があったことに始まる。4月には全蔵書を図書館へ搬入、11月に「廣瀬文庫」寄託の覚書を締結し、平成14（2002）年に「廣瀬文庫」を創設、平成18（2006）年から平成19（2007）年にかけて約4,100冊が蔵書となった。

## 1 廣瀬文庫の内容

蔵書の内容は、国書が約1,700冊、漢籍が約1,200冊、洋書が約800冊、現代の和装本が約400冊、自筆ものが28点の合計約4,100冊である。そのうち貴重書は、国書では「廣瀬本万葉集」として世に知られる10冊があり、洋書では『The Canterbury tales of Chaucer: to which are added, an essay upon his language and versification, an introductory discourse, and notes』など75冊が該当する。

## 2 蔵書紹介

萬葉集 20巻 春日昌預等写 天明元年12月24日（1781） 10冊  
26.6 × 18.8cm [CL25\*\*1-1\*1/10]

本書は廣瀬捨三が、昭和54（1979）年大阪そごう百貨店開催の古書展にて発掘。仙覚本系とは系統の異なる非仙覚本で、非仙覚本系では唯一全巻揃った写本。墨付総丁数は1043丁。

藤原定家が鎌倉幕府三代将軍の源実朝に贈った、相伝秘蔵の万葉集を後年写したものであろうといわれる。

## 谷沢永一コレクション

日本近代文学専攻で、文芸評論家、書誌学者として著名な谷沢永一（昭和4年6月27日～平成23年3月8日）[1929-2011]の旧蔵書である。

谷沢永一は、昭和27（1952）年関西大学文学部を卒業し、修士課程および博士課程を経て、昭和34（1959）年文学部専任講師となった。昭和37（1962）年助教授となり、昭和43（1968）年には教授に就任する。

平成3（1991）年3月退職の前後から、図書館はたびたび蔵書の寄贈を受

けてきたが、平成19（2007）年6月に受領した98冊を、特に「谷澤永一コレクション」と名づけ、箱、カバー、帯等を残す「原裝保存」にて保管している。

## 1 谷澤永一コレクションの内容

蔵書の内容は、堀口大学訳『月下の一群』関係13冊、福田英子関係2冊、藤村操『煩悶記』1冊、ルバイヤット関係82冊の全98冊である。

## 2 蔵書紹介

堀口大学訳『月下の一群』関係は、堀口大学による訳書『月下の一群』のさまざまな版および刷を集めたものであり、福田英子関係は『景山英女之傳』の異装本2種で、これらは珍書として知られている。

また、藤村操『煩悶記』は谷澤永一著『遊星群：時代を語る好書録』明治篇<sup>3)</sup>にも全文紹介されており、天下の奇書としてつとに名高い。

ルバイヤット関係は、「『ルバイヤット』が好きである。堪らなく懐しく愛おしい。」<sup>4)</sup>と谷澤永一が述懐するとおり、片野文吉、矢野峰人、森亮等による歴代の名訳書と、さまざまな言語で書かれた原書のめずらしいものを集めている。

## 注

- 1) 混沌會編『混沌』第22号（中尾松泉堂書店 平成10年）p.71
- 2) 『増訂新編蔵書印譜』中（青裳堂書店 2014年）p.680 および『人と蔵書と蔵書印：国立国会図書館所蔵本から』（雄松堂出版 2002年）p.144 では「浜雄」、反町茂雄『一古書肆の思い出』（平凡社 1988年）p.340 では「浜男」と表記されている。
- 3) 『遊星群：時代を語る好書録』明治篇 和泉書院 2004年 pp.1201-1277
- 4) 『季刊アステイオン』No.6 1987-秋（ティーピーエス・ブリタニカ 1987年）p.89

## 参考文献

関西大学図書館編『おおさか文藝書画展：近世から近代へ』1994年9月  
鶴飼香織「廣瀬文庫ご紹介」『関西大学フォーラム』第8号 2003年6月 pp.69-71  
関西大学図書館ウェブサイト“コレクション”（参照2014.5.22）（URL: <http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/library/collection/>）

（うかい かおり）